

牛久：学校周辺に見る自然

第8号 牛久二小

2020年4月19日発行

＜ 春の校庭 ～③雑草と虫・キクの仲間 ＞

皆さん、こんにちは。牛久二小の春の校庭「雑草とそこに来る虫たち」、今回はキクの仲間です。



まずは、おなじみのセイヨウタンポポ。日本のタンポポは春に咲きますが、ヨーロッパからきたセイヨウタンポポは、陽射しささえあれば冬以外は一年中咲きます。この日は、キマダラハナバチやアシフトハナアブが蜜や花粉を食べていました。



セイヨウタンポポ（左上）と、その果実（右上）。蜜を吸うキマダラハナバチ（左下）と、アシフトハナアブ（右下）。

続いて、よくタンポポとまちがえられるブタナとオニタビラコ。ブタナは、花だけ見るとタンポポ



そっくりです。でも花の柄を見ると、細くて枝分かれしています。地面に広がる葉もぼてっとぶ厚く毛が多いです。オニタビラコは地面に広がる葉だけ見るとタンポポによく似ていますが、やがて茎が伸びて、その先に小さな花のかたまりをたくさんつけます。パッと見ただけで決めつけしないで、葉はどうか、茎はどうかとじっくり観察しましょう。

タンポポとよくまちがえられるブタナ（左）と、オニタビラコ（右）。



ノゲシ（左）とオニノゲシ（中）。 それらの中間の特 徴をもつ、アイノゲシ（右）。

こちら黄色いキクの花をつけますが、背も高く、大きくなるのでタンポポとまちがえることはなさ
 そうです。日本に昔からあるノゲシと、花は似ているけれど葉がトゲトゲしていてつかむと痛いヨー
 ロッパ原産のオニノゲシ。近くには、その中間と言えるような特 徴をもつアイノゲシもありました。



北アメリカ原産のハルジオン（左）と、春の七草「ゴギョウ」で知られるハハコグサ（右）。

最後に、花屋さんのキクに一番似ているハルジオンと、逆に一番キクラしく見えないハハコグサ。
 ハルジオンは北アメリカ原産で、もともと観 賞用に持ちこまれたものが帰化したそうです。「貧乏草」
 などと呼ばれることもあります。きれいな花ですね。ハハコグサはパッと見て、キクの仲間よう
 には見えないかもしれませんが。茎が伸びる前の草は、春の七草の「ゴギョウ」として知られます。7月
 ころにできる果実を見ると、綿毛で風によって飛んでいくキクの仲間であることが分かります。白い毛
 で全身包まれているのは、害虫に食べられるのを防ぐ効果があるそうです。歌にもある高山植物のエー
 デルワイスはこれに近い仲間ですが、岩手県の早池峰山にあるハヤチネウスユキソウはもっとエーデル
 ワイスに似ていて、日本では一番近い仲間といわれています。機会があれば、ぜひご覧になって下さい。

【理科支援員：宮内】